

H30年度 指定管理者導入施設 管理運営評価シート（標準例）

1 評価対象施設の概要

施設名称	生駒ふるさとミュージアム				
所在地	生駒市山崎町11番7号				
指定管理者名	株式会社 地域文化財研究所	指定期間	開始日	平成 30 年 4 月 1 日	
利用料金制適用区分	利用料金制		終了日	令和 5 年 3 月 31 日	
選定方法	公募	評価実施年	指定期間 5 年のうち 1 年目		
設置目的	生駒の歴史を標榜し、市民のみなさんが過去・現在の生駒を思い、未来の都市像を予測して頂くための施設の設立				
主な実施事業等	常設展示、企画展示、特別展示、体験型普及啓発事業、講座、講演会、資料の収集・保存・調査・研究・教育普及等				

2 利用実績

利用区分等	単位	予定(計画・目標)	利用実績	対前年度比	増減の理由等
来館者数 大人	人	-	6,215	-1042	
来館者数 子ども	人	-	3,084	190	
来館者数 合計	人	10,500	9,299	-852	
館外事業参加者数	人	-	1,003	-	
多目的室利用	件	360	352	33	

3 事業収支

		事業計画	事業報告(実績)	(参考)前年度実績
収入計	A	28,886,000	28,776,790	27,531,970
指定管理料		27,637,000	27,637,000	26,332,000
利用料金収入	C	130,000	158,350	156,520
自主事業収入		627,000	635,280	945,940
その他(受講料・観覧料等)		492,000	346,160	97,510
支出計	B	28,736,000	28,107,693	27,394,421
指定事業費		28,259,000	27,581,367	26,510,648
うち人件費	D	11,800,000	11,636,255	11,122,258
うち再委託料	E	3,400,000	3,397,800	3,368,748
自主事業費		477,000	526,326	883,773
事業収支	A-B	150,000	669,097	137,549
利用料金比率	C/A	0.5%	0.6%	0.6%
人件費比率	D/B	41.1%	41.4%	40.6%
再委託費比率	E/B	11.8%	12.1%	12.3%
補足説明(必要に応じて記入)				

※人件費(D)及び再委託料(E)は主な支出内訳のため、DとEの合計額が指定事業費にはなりません。

4 利用者の意見把握状況

利用者の意見把握の実施の有無		実施方法	利用者アンケート・意見箱の設置・その他()
実施結果	意見内容等		対応実績等
	<ul style="list-style-type: none"> ・勾玉づくりが楽しい。 ・子ども対象のイベントをもっと増やして欲しい。 ・カフェを作って欲しい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・勾玉の形、紐のバリエーションを増やし、何度来ても楽しめる工夫を行っている。 ・子どもへの周知を図る為、長期休み・大型イベント実施の際には市内全小学校全児童にチラシを配布した。 ・親子で楽しめる春休みイベントを実施した。

5 管理運営状況評価

施設の設置目的の達成（有効性）	
施設の目的や特性等に合致した管理運営（事業計画に則った管理運営、施設の有効活用による設置目的の達成等）	
指定管理者による自己評価	「生駒ふるさとミュージアムの管理に関する基本協定書」、「生駒ふるさとミュージアム管理運営基本仕様書」、「生駒ふるさとミュージアム管理業務特記仕様書」に基づき、事業を実施している。また、事業報告において評価検証している。
市の評価	事業計画に基づき、概ね適正に管理運営されているが、計画の変更等については、月例会議のほか、随時、市への報告、協議により適切な対応をされている。
市民の平等な利用の確保（平等な利用への配慮、公平で適切な利用者の決定等）	
指定管理者による自己評価	年齢層に応じた方法による周知を行い、来館していただくための情報を提供している。夏休み、イベントの前には市内小学校全児童にチラシを配布し、来館促進に繋げている。貸室申込は、30年度から電子申請の受付も開始し、より多くの方に施設利用の機会が提供できるようになった。
市の評価	どの世代の方からも愛され親しまれ、何度でも行きたくなるミュージアムになるように、より一層努力していただきたい。また、電子申請の利用がまだ少ないので利用促進の取組もお願いしたい。
利用者の満足度（利用者の意見把握結果による満足度の状況、意見等に対する取組状況、苦情等に対する対応等）	
指定管理者による自己評価	来館者、展示観覧者、講演会受講者からの様々な意見・要望を取り入れる為、各種アンケートを行っている。30年度のアンケート結果は、館内展示及びスタッフに対する満足度は、目標の80%を超えるか、その近似値の評価を頂くことができた。企画展、特別展はともに「大変満足」「満足」80%以上の評価を頂いた。引き続きアンケート結果の意見を活用し、次回への対策・改善に繋げていく。
市の評価	館内展示については、概ね満足いただいているようですが、アンケートのご意見にもあったように、もっと「生駒らしさ」を取り入れた展示にもチャレンジしていただきたい。
経費の縮減等の効果（効率性）	
経費の縮減等（経費縮減の具体的な取組、効果等）	
指定管理者による自己評価	使用者がいない時の部屋の電気や空調は適宜消すよう節電に心掛けている。温水機器などは常に節電モードに設定している。ミスプリント、チラシの裏紙を積極的に再利用し、コピー用紙購入の削減を行っている。ボランティアの協力で中庭の景観維持・植栽管理等を行い、経費の削減に努めている。過去の書類は綴り紐を使用し、また、紙ファイル等は再利用し書類の整理を行った。
市の評価	光熱水費やペーパー等消耗品の削減だけでなく、考古資料台帳作成等の調査の効率化を図り事業費削減に努めていただくよう指導した。
収入の増加（収入増加の具体的な取組、効果等）	
指定管理者による自己評価	勾玉づくり体験の収入が多く、目標売上額を上回った。長期休み前のチラシ配布や、口コミ、団体利用が年々増えている。今後も積極的に外部へ出向くなどの出張体験も取り入れていく。貸室利用の収入も目標を達成した。常連の団体に加え、新規の利用も少しずつ増えている。今後も長くご利用いただけるよう、丁寧な対応を継続していく。
市の評価	勾玉づくりは大変好評で、ミュージアム自身の宣伝にもなるので、今後も積極的に実施していただきたい。また、展示にも力をいれ、本来の目的である博物館業務に、もっと積極的に取り組んでいただきたい。
適正な施設の管理運営（適正性）	
施設の管理運営の状況（適正な人員配置、従業員の能力・資質向上、広報活動、環境行動の取組状況、地域との連携等）	
指定管理者による自己評価	従業員個々の特性に応じた業務分担や、スキルアップのための研修を実施した。広報活動では、インスタグラムを新たに発信の媒体として追加した。環境行動の取組では、牛乳パックを利用したエコ和紙づくりのイベントを開催した。
市の評価	博物館施設という特性からも職員の継続雇用は必須で、専門知識の向上や調査研究の時間の確保した勤務体制と職員の士気があがるような組織づくりを心がけていただくよう指導した。

自主事業の取組（施設の有効活用による市民サービスの向上への効果等）	
指定管理者による自己評価	歴史文化を身近に感じてもらえるよう、年間を通して様々なイベントを実施するとともに、常時利用できる体験学習や、定期的に行う講演会等により、博物館施設として幅広い年齢層の市民に広くご利用頂ける環境を提供している。また、歴史に関連するガチャガチャの種類を増やし、より楽しく歴史に触れる機会の充実に努めた。
市の評価	講演会は、好評で固定のファンもおられる。今後もアンケート等を参考に、ニーズの高い講座やイベントを開催し、何度も行きたくなるようなミュージアムを目指して取り組んでいただきたい。
安全管理、危機管理体制等（個人情報保護、事故発生時の対応、危機管理体制等）	
指定管理者による自己評価	「生駒市個人情報保護条例」を遵守している。また、事故発生時の緊急連絡体制・事案については「危機管理マニュアル」に基づき、周知している。年一回の消防訓練を行っている。
市の評価	引き続き、個人情報の取扱には細心の注意を払って対応をお願いしたい。常に危機管理意識をもち、施設の管理運営に当たってください。大切な資料も保存されていますので、今後も利用者の安全確保と資料の保存に努めてください。
サービスの安定的な提供（安定性）	
事業収支（自主事業を含む）の状況（事業収支の妥当性、安定的な事業継続等）	
指定管理者による自己評価	継続的な経費削減、事業内容に応じた参加費の設定等により、黒字の収支となった。自主事業においては外部との共同事業を行うなど、ミュージアムとのネットワークが広がるきっかけをつくる事ができた。今後も施設本来の目的達成に向け、安定的な運営と質の向上を図りながら、来館者から高い満足度を得られるよう努めていきたい。
市の評価	ミュージアムの重要な役割のひとつである展示に対する経費に、もっと予算の比重をかけていただき、より充実した展示を目指していただくよう指導した。

6 指定管理者の財務の状況

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
資産	21,051,022	27,995,016	37,388,855
流動資産	18,206,988	25,334,560	33,228,456
固定資産	2,844,034	2,660,456	4,160,399
負債	15,518,324	19,396,405	27,308,391
流動負債	9,330,324	14,600,405	23,904,391
固定負債	6,188,000	4,796,000	3,404,000
純資産	5,532,698	8,598,611	10,080,464
資本金	3,000,000	3,000,000	3,000,000
売上高	75,295,062	93,821,026	113,257,176
経常利益	308,988	4,310,704	2,347,275

7 指定管理者の経営状況（財務・資産関係指標）

	平成 年度	平成 年度	平成 年度
自己資本比率 純資産/資産×100	26.3%	30.7%	27.0%
負債比率 (流動負債+固定負債)/純資産×100	280.5%	225.6%	270.9%
固定比率 固定資産/純資産×100	51.4%	30.9%	41.3%
流動比率 流動資産/流動負債×100	195.1%	173.5%	139.0%
固定長期適合率 固定資産/(純資産+固定負債)×100	24.3%	19.9%	30.9%
総資産回転率 売上高/資産×100	357.7%	335.1%	302.9%
総資産経常利益率 経常利益/資産×100	1.5%	15.4%	6.3%

8 総合評価等（今後の業務改善に向けた考え方）

指定管理者による自己評価

講座・講演会の参加者数、特別展・企画展の入館者数ともに目標の10,500人に届かず、総入館者数は、10,302人であった。このうち館外事業参加者数は1,003人で、これを差し引いた入館者数は9,299人である。館外事業では、他館との共催や「どこでも講座」などが前年度に比し参加者数が増加する一方で、ミュージアムへの来館者数は減少している。原因として、入館者のカウント方法が、一期目である昨年度と二期目を迎えた今年度で異なること（一期目は選挙者数を入館者としてカウント）、展示事業や講演会などへの参加者数が伸びなかったことが考えられる。これを踏まえて、次年度は、博物館の柱でもある展示事業に力点を置きつつ、当館の目玉事業であるお正月イベントや今年度拡大した地域史を意識した「どこでも講座」、他館連携事業なども継続し、より市民のニーズにあった企画を考えたい。生駒の歴史・文化を発信していく場所として、一人でも多くの来館者に、また来たいと思っていただけるような展示や活動を行う。引き続き学芸員のスキルアップを目指して、研修を実施し、ミュージアムが更なる市民文化の発展に寄与していくよう努めたい。

市の評価

限られた予算ではあるが、展示事業に、もっと積極的に取り組んでいただくように指導した。展示の充実には、必要最低限だけの人員ではなく、展示や調査研究にも取り組めるような人員配置が必要であり、予算の配分を工夫していただくようお願いした。文化財の収集・保存・整理業務については、専門的分野となるため、成果物の工程表や写真、進捗状況のほか、より具体的に作業実績がわかるような報告をしていただくよう指導した。